

# 学校だより 希望の館

ひとつのはいぢかひらかない



八戸市立  
小中野中学校

平成30年9月20日(木)

No.130 文責: 校長  
工藤聰

## キャプテンシーは勝敗を左右する

素晴らしい成績を収めて、市中体秋季大会が終わりました。（裏をご参照ください。）特に、男子バレーボール部の優勝は、いろいろな面で圧巻（アッカン：全体の中で最もすぐれた部分のこと）でした。その1つ目は、戦前の下馬評（ゲバヒョウ：直接関係のない人たちがするうわさ、評判など）で優勝候補にあげられながら、プレッシャーに押しつぶされることなく、圧倒的大差（私が見た試合内容において）で優勝したことです。予選リーグの根城中戦と決勝の大館中戦では1セット失ったものの、最終の3セット目は接戦となることもなく、大差の勝利でした。どんなに実力差があったとしても、1対1のセットオールになれば、動搖したりして精神的に追い込まれ、本来の力が出せないものですが、そうならないところに男子バレーボール部の強さを感じました。2つ目は、直前になってくん、くんとケガ人が続出したり、くんが体調不良で欠席が続いた中で、そういう不安を克服したことです。この3人は、男子バレーボール部には欠かせないメンバーですから、「出れないかも」となれば、不安な気持ちを持つ部員も出てきたりもするのですが、そうならなかったのは、部全体に精神的な強さがあったからだと思います。そして、その中にいたのが、部長のくんだったのではないかと私は考えています。

私が、くんやくん、くんに「大丈夫か？」としつこく聞いていた時も、そばにいたくんは一貫して（イッカンスル：最後まで同じ態度を貫き通すこと）絶対に「優勝します」と言っていました。まさしく、くんは「男子バレーボール部の精神的支柱（セイシンテキシチュウ：頼りになる、安心させる心の支えとなる者）」だったのだと思います。エースアタッカーですから、技術的・体力的にもくんは中心です。それに精神的な部分もプラスされるわけですから、本当に大黒柱といつていい存在です。今回の試合を見ていても、苦しい場面や「ここ一番」といった大事な場面でポイントを取った時の、両拳を握りしめて上を向きながらのガッツポーズは、チームメイトを鼓舞する（コブスル：励ましてやる気を高め、奮い立たせること）ばかりでなく、応援している者をも安心させる何かがありました。秋季大会前に、2年生の学年朝会での壮行会を少し見に行ったのですが、そこでもくんが各部へのエールをおくっていました。本当に力強いエールでした。もちろん普段の練習でも、誰よりも大きな声を出していました。

「キャプテンシー」という言葉があります。『キャプテンとしてチームを統率する力。指導力』のことです。同じような言葉に「リーターシップ」がありますが、こちらはリーダーという広い意味の人の指導力のことで、特定の人物を指すものではありません。しかし、キャプテンシーとは、キャプテンの役割を担った人でなければならないわけで、よりプレッシャーが増すわけです。どのようなキャプテンに率いられるかで、そのチームの雰囲気やチームワーク、モチベーション、そして最終的な成績まで決まってしまうのだと思います。その点で部員全員の力もさることながら、くんのキャプテンシーも優勝を引き寄せた要因の一つだと私は思います。

くんだけでなく、新人戦におえる各部の部長（キャプテン）のキャプテンシーは称えられるものだったと思います。女子バレーボール部のさんは、前日に39度台の高熱を発症したにもかかわらずボールを拾いまくり、三条中（3位で県大会）戦では、一時は22対22まで粘りました。剣道部女子は、三条中との試合で0対3で敗れたのですが、そもそも3人しか部員がいないですから、最初から0対2で試合を始めなければならないわけで、出場した3人だけで言えば「0対1の2引き分け」と、優勝した三条中相手に大健闘したことになります。そこには、やはりさんの力もあったのだと思います。野球部のくんは、2対5の最終回に、1アウト2・3塁の場面で4対5となるヒットを打つ勝負強さを見せてくれました。卓球部女子のさんも、常に献身的な姿勢でチームを支えてくれています。吹奏楽部のさんは、人数の少なさを感じさせない応援の原動力となりました。剣道部男子のくん、卓球部男子のくん、ソフトテニス部のくんと、いずれもキャプテンシーを發揮した秋季大会であったと思います。

さて、今朝の生徒朝会では、各部の部長が秋季大会の報告をしてくれました。どの部長も、最後は異口同音（イクドウオン：多くの人がみな、口をそろえて同じことを言うこと）に、指導してくれた人や応援してくれた人に感謝の言葉を述べていました。これも、キャプテンシーの重要な1つだと思います。勝っても負けても、秋季大会を総括（ソウカツ：全体を見渡してまとめる）し、反省をしなければなりません。そこに、「感謝の気持ち・心」があることで、再びいいスタートがきれるのではないかでしょうか。1・2年生は、キャプテンシーにあふれたいい部長のもとで活動しています。次の目標を明確に設定し、努力を重ねてほしいと思います。

## 男子バレー部、優勝おめでとう！

市中体秋季大会の結果をお知らせいたします。(個人戦については入賞者または県大会出場者のみ、敬称略での掲載です。)

## ◆ソフトテニス競技(9月15~17日 東運動公園テニスコート)

- 女子団体 1回戦 小中野中 2-1 湊中 2回戦 小中野中 0-2 第一中
- 女子個人戦 第9位 工藤華・木村里菜組(県大会出場)

## ◆野球競技(9月16日 長根球場)

- 2回戦 小中野中 8-2 白山台中 3回戦 小中野中 4-5 市川中

## ◆バレー部競技(9月15~17日 東体育館)

- 男子予選リーグ 小中野中 2-0 北稜中 小中野中 2-1 根城中
- 男子決勝トーナメント 準決勝 小中野中 2-0 湊中  
決勝 小中野中 2-1 大館中 優勝(県大会出場)
- 女子予選リーグ 小中野中 0-2 三条中 小中野中 0-2 第一中

## ◆卓球競技(9月16・17日 八戸市体育館)

- 男子予選リーグ 小中野中 2-3 白銀南中 小中野中 3-2 第一中  
小中野中 1-3 根城中 (3位で予選リーグ敗退)
- 女子予選リーグ 小中野中 3-1 鮫中 小中野中 3-0 大館中  
(1位で2次予選に進出)
- 女子2次予選 小中野中 3-2 根城中 (決勝リーグ進出)
- 女子決勝リーグ 小中野中 1-3 三条中 小中野中 3-2 第二中  
小中野中 1-3 東中 第3位

- 男子個人戦 第5位 晴山篤(県大会出場)

- 女子個人戦 第5位 安江理歩(県大会出場)

第9位 青木優奈(県大会出場)

## ◆剣道競技(9月16日・八戸二中体育館)

- 男子団体 1回戦 小中野中 1-2 三条中
- 女子団体 1回戦 小中野中 0-3 三条中
- 男子個人戦 第5位 岩谷藤支

どの部も、目に見える成績以上に大変よく頑張ったと思います。男子バレー部が堂々の優勝、卓球部女子が大健闘で3位入賞を果たしました。秋季大会の一日目、私がバレー部競技をみて学校に帰ると、職員室正面の黒板に大会中の成績が書かれているのですが、卓球女子の2次予選までの戦績もありました。実は、卓球女子の組み合わせはなかなか厳しく、夏季大会地区大会では3年生主体の旧チームが優勝した大館中(東北大会に出場)と準優勝だった鮫中と同リーグでした。それが2勝して2次予選に進むと、やはり夏季大会ではベスト4に残った根城中が相手です。この3つは、今回もベスト4に残って全く不思議でない実力のあるチームなのです。それに勝っての決勝リーグ(ベスト4による総当たり戦)ですから、思わず長根の八戸市体育館に向かっていました。決勝リーグでは、優勝した三条中と準優勝の東中には惜しくも敗れてしまいましたが、1か月前の北奥羽大会では、0-3で負けた第二中にも勝っての第3位ですから、本当にスゴイことだと思います。入賞できなかった野球部も、1-5から最終回に3点を奪い、一打同点のチャンスをつくりましたし、女子バレー部、ソフトテニス部、剣道部も、今後もっともっと強くなるのではないかという期待を抱かせるような戦いぶりでした。吹奏楽部、報道部の応援団も少人数にもかかわらず、それを感じさせない素晴らしい応援ぶりでした。その応援は、選手のみなさんの大きな力、励ましになったと思います。お疲れさまでした。

保護者の皆様、応援や送迎等本当にありがとうございました。今後もよろしくお願ひいたします。

## 【今日のひとりごと】

○今日の私の似顔絵は、年組のくんに描いてもらいました。バレー部のくん、力強いスパイクとブロックで優勝に貢献しました。私の似顔絵も、不思議な力強さを感じます。特に、額(オデコ)の真ん中の部分が…。

男子  
小中野は

小	△	根	△	小	△	男
中	△	第3位	△	大	△	決勝トーナメント
野	△	北稜	△	中	△	1回戦
2	2	城	2	2	2	優勝
1	1	代	0	0	0	トーナメント
大	大	委	大	大	大	1回戦
		決				
		勝				
		戦				
		大				
		勝				
		城				
		館				

(八戸市東体育館)